

広 報

みなみふらの

かなやま湖 9

2022. SEPTEMBER No.798



- P2 第51回かなやま湖湖水まつり
- P3 複合型商業施設フードコートの新店舗紹介
- 秋はヒグマに要注意
- P4 まちの話題・出来事（消防に寄せられる期待に応え！、ALT（外国語指導助手）が変わりました）
- P5 ~11 南の国の真夏に挑む体験の旅
- P12~13 カメラレポート
- P13 観光協会通信
- P14 教育委員会通信
- P15 南富高新聞・学校だより
- P10 ほのお
- P11 子育て支援センターだより
- 保育所の元気な子どもたち
- P12 宝くじ（ハロウィンジャンボ）、寄附・寄贈

かなやま湖湖水まつり 湖水音頭
（石上久美子さんと南ちゃん） 7月30日



わがまちの一大イベント「第51回かなやま湖湖水まつり」が7月30日（土）に行われ、多様な催しにキャンパーや観光客など多数の方々が、かなやま湖畔キャンプ場を訪れました。今年の湖水まつりは、来場者に感染予防をお願いして、3年ぶりに飲食関係などを解禁し大きな賑わいをみせました。

午前11時に湖畔ステージでの開会式後、「陸上自衛隊上富良野駐屯地音楽隊吹奏演奏」を皮切りに、まつり名物の町内女性団体の皆さんが踊る「湖水音頭」に続いて、大道芸や、バンドなどのライブショーが行われ、子どもから大人までを楽しませ、ステージイベントの最後には、本町出身の演歌歌手石上久美子さんの歌

謡ショーで、本町をイメージした曲、「どこそこ？南富良野」などが披露されました。

また、会場外のイベントでは、金山ダム見学会や午前と午後に有料のカヌー、サイクリング、フィッシング体験など、受付開始直後から定員に達するほどの大盛況でありました。また、会場内では、臨時売店や、今回初めての試みとなるキッチンカーが出店され、おまつり気分を更に盛り上げていました。

湖水まつりの最後を飾る花火大会では、約2000発の色とりどりの花火と全長700mの「ナイアガラ滝」が夏の夜空を華やかに彩り、約4千6百人の来場者を魅了し、まつりが締めくくられました。

複合型商業施設のフードコートに、新たなお店がオープンしました。ご紹介します。

☆おもちカフェ もちはもち屋

営業時間 11:00 ～ 17:00 (不定休)

下金山地区のもち米「はくちょう米」を使用した磯辺焼きや焼き団子のほか、コーヒーや日本茶などを提供する和風カフェです。

注文を受けてからグリルで焼く磯辺焼きや焼き団子は、芳ばしい香りが食欲を誘う一品で、磯辺焼きにはノーマルのもののほか、山わさび醤油や行者にんにく醤油で焼いたメニューもあります。また、コーヒーは中富良野町のすぎやま珈琲の自家焙煎、日本茶は川根茶など、美味しさにこだわった飲み物が飲めます。



村上 大輔 店主(写真右)
村上 和子 さん(写真左)
☆富良野産のハチミツやウメを使ったジュースなども提供しています。皆さまに、満足いただけるよう頑張っています。ぜひ、お越しください。



☆お店のお勧めメニュー
・焼き団子と川根茶
地元「はくちょう米」を自家製粉した粉と北海道産「うるち米」の上新粉から作られる団子は、しっかりとした食感と醤油の香りが漂うタレが癖になる品です。また、水出しで提供される川根茶は、香りが良く、まろやかな甘みと同時に渋みを味わえる日本茶です。

☆とんかつ かつさい

営業時間 11:00 ～ 20:00 (水・金・土・日曜日)
11:00 ～ 17:00 (月・火曜日)
(木曜定休日) 電話 52-2886 (現在電話準備中)

「道の駅」物産センター内で営業していたお店が、複合型商業施設にリニューアルオープンしました。

ラーメンやそばの麺類から、カレーや定食まで多彩なメニューは健在で、中でも揚げ物の「とんかつ」や「エビフライ」を使った定食や丼物、カレーは、衣がサクサクに揚げられていて、お店の開店当時の人気メニューで、とても美味しくボリューム満点です。

「とんかつ」は、ロースカツとヒレカツの2種類があります。



齋藤 昭彦 店主(写真左)
齋藤 由佳子さん(写真右)
☆揚げたてや 手作りなどにこだわり、美味しい料理を提供していきますので、皆さまのお越しをお待ちしています。



☆お店のお勧めメニュー
・豚ロースカツ定食
注文を受けてから肉を揚げ、熱々な状態でお客様に提供する豚ロースカツは、中はジューシー外はサクサクで、ごはんとの相性もバッチリ、添えられたキャベツも胡麻ドレッシングで、とても美味しくいただけます。

複合型商業施設のフードコートでは、7月に2店舗がオープンして、6店舗全てのお店で営業が始まり、多くの観光客などが訪れ賑わいを見せています。

秋はヒグマに要注意 (秋のヒグマ注意特別期間 9月8日～10月31日)

秋は、キノコ採りなど野山に入る機会が多くなります。ヒグマによる人身被害は春と秋に多く発生し、被害の3分の2は山菜やキノコ採りで起こっています。野山に入る際には下記の「ヒグマに遭わないための基本的ルール」を必ず守ってください。

- ・食べ物やゴミは必ず持ち帰る
- ・1人では野山に入らない
- ・野山では音を出しながら歩く
- ・事前にヒグマの出没状況を確認する
- ・薄暗い時には行動しない
- ・フンや足跡を見たら引き返す

※人里周辺などでヒグマを目撃したときは、役場または警察にご連絡ください。

消防に寄せられる期待に応え！

「第50回全国消防救助技術大会」出場

7月16日（土）、札幌市消防学校にて3年ぶりに開催された「第50回全国消防救助技術訓練指導会」におきまして、富良野広域連合消防本部南富良野支署鳥羽壘消防士長（28歳）と、坂本大地消防士（25歳）が、ロープ応用登はんの種目において、最も優れたタイムにより北海道知事賞を受賞されました。

訓練指導会は、一般財団法人全国消防協会北海道地区支部の主催により、全道の消防救助隊員が一堂に会し、救助技術を競い、学ぶことにより、優れた消防救助隊員を育てることを目的に開催されています。

両隊員が出場した種目は、登はん者と補助者が2人1組で協力し、器



「ロープ応用登はん」訓練様子



写真：右）鳥羽消防士長・左）坂本消防士

材など一切使わずに、訓練塔から垂らされた15mのロープを使い壁をよじ登る訓練で、2年前からパートナーを組み練習に励んできた両隊員は、息の合った技術により、わずか13秒の好成績で今回知事賞を受賞し、東京都立川市で開催される「第50回全国消防救助技術大会」に出場します。

両隊員は「大会では好成績を残して、町民皆さんから、より一層の厚い信頼を寄せていただけるよう頑張ります」と意気込みを述べていました。

ALT（外国語指導助手）が変わりました

ありがとう チェルシー
お世話になりました

ようこそ レイナ
着任しました

平成29年7月から小・中・高等学校でALT（外国語指導助手）として、英語を指導されてきたチェルシー・ゴードンさんが任期を終え、帰国（米国）されました。

7月29日の離町に際し、役場前には、これまで指導を受けた多くの児童生徒や関係者の皆さんが集まり、別れを惜しみました。

チェルシーさんは「5年間の経験は、私の人生で大切な宝物です。今までお世話になった方々にとても感謝しています。そして、南富良野町の児童・生徒皆さんの立派な成長を心からお祈りします」と感謝を述べ、本町を後にしました。



チェルシー・ゴードンさん

○新しいALT
レイナ・リスカさん
○出身地
米国ネブラスカ州リンカーン
○趣味
絵を描くこと
○特技
ピアノ

★町民の皆さんへのメッセージ
南富良野町の皆さん、こんにちは！ALTとして着任しましたレイナ・リスカです。新しい生活や皆さんとの出会いを楽しみにしています。生活を通して日本の文化を学び、子どもたちに英語を教えたいと、今から期待で胸がいっぱいです。街でお会いしましょう。



レイナ・リスカさん

南の国の真夏に 挑む体験の旅（中学生編）



「友好の町」沖縄県本部町との間で行われている親善交流事業「南の国の真夏に挑む体験の旅」が、7月11日から15日の日程で、中学1・2年生29名と随員7名が本部町を訪れ、南国沖縄の暑さや文化を体験しました。生徒は研修テーマ毎に、事前に調べ、現地で学んだことをまとめたので、その内容を紹介します。（生徒のまとめた内容については、氏名を記載しておりません）

研修テーマ

○メインテーマ ～沖縄戦から平和について考える～

○選択テーマ ～発見！沖縄県の魅力～（各自2つ選択し研修をしました）

- ・南国の生きものたち
- ・マリンスポーツ
- ・沖縄のシンボル「シーサー」
- ・食べたことのない食べ物

☆メインテーマ ～沖縄戦から平和について考える～

- 沖縄戦とは、住人も巻き込んだ激しい地上戦で約20万人が亡くなった。ひめゆり学徒隊の人たちは、患者の手当て、食料や水の確保など、様々なことで、戦争に協力していた。証言を読むと、戦争の時の様子が具体的に書いてあって、生々しい情景が浮かんだ。戦争が終わってからも、心などにその影響がしばらく残ったことが分かった。逃げるために友達を置いていかなければいけないことがとてもつらいことだと思った。実際に戦争を体験した人のムービーや証言を聞いて、改めて戦争はあってはならないことだと思った。だから、みんなに戦争の怖さを伝えていきたいと思った。戦争が起きていた当時の様子は、今はわからないけど、今回の資料館の様に戦争で使われていたものや、証言が残っていると、様子が詳しくわかり、みんなに伝えていくことができると思った。

☆メインテーマ ～沖縄戦から平和について考える～

- 事前学習で自分が想像していたよりも亡くなった人々が多くて驚いたし、そんなにも人が亡くなったのだと思うと凄く怖い気持ちになった。

沖縄戦について詳しく知る前は、「他の県などにすぐ逃げればよかったのに」とか「なんでこんなに死者がでてしまったのだろう」などと思っていたけれど、資料館やビデオ資料館の人の話などを聞いて逃げたくても周りには米軍が包囲していて逃げるができなかったり、疎開する船が攻撃を受けたり、無差別に壕の中で殺されたりした事実を知って今までそれほど深い気持ちで考えていなかった沖縄戦が口では表せないほどどれだけ悲惨で悲しい出来事だったのかを知り、改めて戦争は絶対に起こってはならないことだと思った。沖縄民や自分たち以外の日本の全ての人々に戦争の悲惨さ知ってもらい、全員が戦争について考え直して、もう二度と戦争をしないという心を持った平和な日本(国)になれば良いなと思った。

- 学習する前からやってはいけないことだと思っていましたが、資料を見たり、話を聞いたりしてより考えが深まりました。日本以外にも紛争が起きているところはたくさんありますし、ロシアとウクライナのように攻撃されているところもあります。なくなっていく人たちの中には軍の人はもちろん、その地域に住んでいる何の罪のない国民の人もいます。

戦争をなくすのは自分にはできないですが、実際に体験した人の話を聞いたり伝えたりしていくことがやっぱり大切なと思いました。

- 戦争は自分に関係ないからいいやと思っていましたが、沖縄に行って戦争について学んだりしたら自分に関係なくても苦しい思いをしている人は大勢いたんだと心が悲しくなりました。沖縄には楽しいこともたくさんあるけれど戦争など悲しいこともあるということを知りました。これからは戦争について知らない人達にも戦争のこわさ、戦争はどういうものなのかなど広げていきたいと心から思いました。

- 戦争により戦争に関係ない方まで命を落とされてしまった。そして自分たちの年齢から戦争に関わらないといけなくて、勉強などで忙しい自分たちにとって過酷なものだった。自分への時間もなく、自国に協力しなければいけないということを踏まえるとやっぱり戦争はやってはいけないものだと思う。

疎開のため、対馬丸という船で安全な場所に行こうとしたがその移動中に船が撃たれて沈没してしまったことにより亡くなったというように関わりの少ない人も亡くなってしまったことも考えるとやっぱり戦争はやってはいけないと思う。

戦争とは想像以上に過酷なもので、今の自分たちの年齢から関わらないといけない(治療する人、戦いに協力する人)というのを現地に行って学んで、大人に任せきりでは戦争はやっていけないということを行った前と後での違いで感じた。

これから平和に向けて、さっきも書いたけど大人の力だけでは限度があると思う。戦争でも自分たちのような子どもの力が発揮されていたから自分達はまだまだ大丈夫ではなくて自分達にも関係があるということを常に意識して平和に向けて取り組んでいけるようにしたい。

自分たちの力で大きく変えることは難しいと思うから少しずつ気づくか気づかないかくらいの小さなことで良いから今の自分たちにできることは無いのかというのを考えて生活していけるようにしたい。



▲ひめゆり平和祈念資料館



▲平和の礎

- 戦争とは人の命を簡単に奪えてしまう。肉体的にも精神的にも苦しく、辛いものだと思います。そんな中で人々は戦っている。勝っても負けても亡くなった方は多い。生き延びた方も、結局辛い思いをしながらその後を生きている。その時で終われるものではないから、やっぱり戦争はしてはいけないと思います。年齢関係なく人々がなくなっていく。そして、戦争は恐怖。それはわかってはいたけど、ひめゆりの資料館に行って、偽物の音や人工の壕に入っただけでも怖かったくらいだから、実際に体験した人はもっと怖かったはず。証言映像などを見たりして、楽になるために死んでしまう人もいるとわかり、生きていた方がいいことがあると思ってはいたけど、戦争は生きることよりも楽になることの方を求めている人が多いのではないかなと思います。「戦争はだめ」と口では言えたけど、根拠がはっきりしていなかった。ひめゆりに行って、どうしてダメなのかがわかりました。そして戦争とはどのようなものなのかを知ることができました。平和とは正解がないと思います。だから、余計に難しくなる。私が思う平和とは、だれもが安心して生きていける世の中だと思います。過去の過ちから学ぶ、その能力が必要になります。やってはいけないことの見分けを付けることで私が思う平和を少しは実現できると思います。競争心があるから人は成長し変わっていきます。その競争心を「戦争」という形に変えてしまうのがよくないから、別の形で競争することで、同じ過ちを起こさなくなると思います。

- 『戦争の悲惨さ』『平和のありがたみ』『命の大切さ』を沖縄、かつての戦争の地で学んだこの経験は私にとって忘れられない、心に刻まれたものになりました。実際に戦争の被害を受けた方の証言や写真を見て、今生きている自分の暮らしがどれだけ貴重で、奇跡なのか。また、戦争の時代に生きていた人にとって望んでいた暮らしが今の自分の暮らしなのかもしれないと感じました。昔も今も人が生きていくという事実は変わらないのに、戦争があるのとないのとでは人々の悲しみ、喜び、怒り、苦しみのスケールすべてが違って、自分が生きていく世界がどれだけ幸せで幸福に満ちているのかを身をもって知ることができたと思います。行く前とは変わり、戦争のない世界で生きている自分が誇らしくなりました。命がどれだけ犠牲になったのかと共にどれだけ命が尊いものなのかを知り、肌で感じた、そんな体験の旅だったと思います。

平和の実現に向けて歩んでいかなければならないのは、上で『』で書いた3つのこと、またそれ以上のことを知った私たちであると思うし、戦争があったというただ一つの事実をこれから平和な未来を生きていくであろう人達の記憶に残していくことが大切だと思いました。誰しもが平和を望んでいるかどうかはわかりませんが、私は全世界の人に平和を望んでほしいと思います。ですが、それぞれの平和を実現するために、平和の形が違う国同士がたくさんの犠牲を払って、悲しみを背負って戦わなければならないのは違うと思うので、戦争はよくない、そして起こしてはならないと改めて感じました。

戦争はよくないとは思ってはいましたが、今回の経験で戦争に対して、戦争で亡くなった人たちに對しての思いが強くなりました。沖縄の地で実際に学ばせていただいたことに感謝したいです。



▲ひめゆりの塔



▲平和の礎

☆選択テーマ ～発見！沖縄県の魅力～ 「マリンスポーツ」

- 沖縄に住んでいない自分たちがバナナボートやオーシャンランドなどをやると凄く楽しかったし、良い思い出になった。他の県などから観光に来る人たちにとってマリンスポーツは沖縄でしか体験できないものもあるから凄く楽しめると思うし、家族などの思い出をつくり一生の思い出にでき、実際に行った時も観光客なども多くいたので沖縄ならではのマリンスポーツは、沖縄県の観光に大きく影響していると思う。

- 生まれて初めての体験をしてすご楽しかったです。海の中を初めて潜るからどんな感じなのか楽しみでかしょうがないから最初から最後までがとても楽しかったです。海の中には大きい魚がいたり色が綺麗な魚もいたし普通の色がついていない魚がいたりしたからすごい最高でした。できればもう一回行きたいです。

- 私は、海に入ったことが一度もなく、バナナボートにも乗ったことがなかったので、海に入りながら、魚を見るということが初めてだったので、とても新鮮でした。
バナナボートに乗っている時、晴天の下、水がかかりながらエメラルドグリーン色の海の上を進んでいたの、とても神秘的な風景を楽しめました。
海の中、海の上、砂浜の3つを体験しましたが、どれも初めてなことばかりで、とても楽しかったです。

- 沖縄のマリンスポーツには、バナナボートやジェットスキーなどの種類があって、どれも沖縄の青くてきれいな海を楽しめるスポーツ。
実際にバナナボートに乗ってみると、沖縄の気持ちの良い潮風を感じることができ、スピードもあってスリルも味わうことができた。また、涼しさも感じることで、暑い沖縄の夏にはピッタリだと思った。



▲マリン体験

☆選択テーマ ～発見！沖縄県の魅力～ 「沖縄のシンボル（シーサー）」

- 事前に調べたようにシーサーは家の守り神としてホテルや建物、家などの入口または玄関などに置いてあった。バスガイドさんが、口が開いているのがオス、閉じているのがメス、オスが右、メスが左に置くということを教えてくれて実際に住宅などを見てみてもそのようにシーサーが置いてあった。実際にシーサー作りを体験して自分オリジナルのシーサーをつくることができたけれど、建物の前などに置いてあった大きくてよりリアルな細かいシーサーを作るには凄く大変なんじゃないかと思ったけど、昔から伝統的につくられ守り神としてたえられてきたのだと思った。
 - ・事前学習：昔、火事を防ぐための守り神という意味で作られた。置き場所は屋根の上、門柱の上、玄関の前、玄関の中などが適している。

- （シーサー作りを体験して）
最初は作るのが難しいと思ったけど、お手本の形を見て楽しく、うまく作れることができた。写真で見るとようにうまく作ることは、できなかったけど自分なりにはいい作品が作れた。
 - ・事前学習：シーサーとは、ライオン＝獅子（しし）のことで、魔物や災いを追い払ってくれる沖縄の守り神です。シーサーは置く場所や守るものによって、「宮獅子」「村落獅子」「家獅子」の3種類に分類することができます。

☆選択テーマ ～発見！沖縄県の魅力～ 「南国の生きものたち」

- 魚：「〇〇スズメダイ」というスズメダイシリーズが多く生息する
ハブ：種類によって、長さ・毒の危険度が違う。
ハブの強敵は、マングース！マングースはハブにかまれても、生きているらしい！（死んだケースは見当たらないらしい）

- ハブ、なんかわからない魚、蝙蝠などいろいろな見たことのない生きものなんかがたくさんいてとても興味をひかれた。
ハブは何かを襲って毒を注入するごとに牙の本数が増えたりする。
南の国の生きものは僕たちも見たことがない生きものばかりでとても興味深いように感じた。

- ハブクラゲ
 - ・厄介なのは、クラゲの傘(かさ)が半透明である為に水中では見えにくく、刺されてから初めて気付く場合が多いところ。
 - ・6月～9月にかけて多く発生。
 - ・波の静かな砂浜や、入り江、人工ビーチなどでの被害が多い。
 - ・水深20～30cmの浅い砂浜でも刺症事故が発生しています。
 - ・ハブクラゲの触手には、刺胞と呼ばれる毒の針の入ったカプセルがたくさんあり、刺激を受けると毒針が飛び出すしくみになっている。
 - ・刺されると激痛を生じ、みみずばれのような跡になるのが特徴。カツオノエボシ(別名デンキクラゲ)
 - ・ときどき、浜辺に打ち上がっているのを見かけます。
 - ・青白い浮き袋から青く長い触手が伸びていて、一見綺麗に見えて知らないとお子さんが触ってしまう危険性も。
 - ・空気の入った浮き袋で風を受けて移動するので、風がある日は特に注意が必要。
 - ・風によって運ばれてきて、触れてしまい被害が発生することがあります。
 - ・刺されると電気が走ったような強い痛みを感じるため、「デンキクラゲ」との別名も。

- 沖縄は日本でも珍しい亜熱帯海洋性気候なので、沖縄にしかない生き物も多いらしい。海の生き物ならマンタやジュゴン、陸の生き物だとイリオモテヤマネコが沖縄にしかないらしい。
 - ・ジュゴンの生態：アマモ類などの海草が育つ熱帯から亜熱帯の浅い海域に生息している。ジュゴンが沖縄などにしか生息できないのかは食性にある。

- 美ら海水族館といこいの駅いずみは楽しみにしていたひとつなのですごく楽しみにしていました。北海道とは大違いで日本唯一の南国にはいろいろな南国の生き物がいるということを沢山のところへ行って学習することができました。南国の海、言えばあったかい海にしかない生物や沖縄にしかない生物がたくさんいてそれらの生き物たちを実際に観察したり、触ったりしてどのような生態をしているのかななどを調べることができました。

- マンタやジュゴンはもちろん、クモなどの虫も北海道では考えられないほど大きかった。ヤモリや、ハブなど、北海道では見られない生き物などがたくさんいた。生えている植物も、こんなに違うと思わなかった。その生き物の違いは、気温にあり、亜熱帯地域にしか生息できない生き物がたくさんいるのだとわかった。生き物の中でも、ジン バイザメは本当に大きくてすごかった。



▲美ら海水族館

☆選択テーマ ～発見！沖縄県の魅力～ 「食べたことのない食べ物」

- 北海道でしか栽培できない食材、逆に沖縄でしか栽培できない食材など、気候に合わせて農業の形がとても変わっていてびっくり。サトウキビ畑を見て、北海道の小麦の景色、水田の景色とは全然違うけれど、どちらにも風情があるなと感じました。
おいしいものばかりで素敵な沖縄の食文化はこれからも続いてほしいなと思いました。
- 沖縄そばは、そば粉を使わずに小麦粉だけをつかって作っていることが分かった。お盆のときはそばを食べずに沖縄そばを食べている。
- 沖縄には、ステーキ屋や焼き肉屋などの肉の店が多かったと感じた。沖縄そばやソーキそばは、そばみたいに細いと思っていたけど、実際は、うどんみたいに太く、ほぼうどんだった。ドラゴンフルーツやシークワーサーなど、いろいろなフルーツもあった。こんなにも食文化が異なるのは、沖縄と北海道が離れているからなのだろうと感じた。でも、どちらの料理もおいしい。あと、味はそんなに薄くなかった。
- 一番印象に残っているものは、パッションフルーツです。独特な香り（風味）と甘みで、新感覚のフルーツでした。
ドラゴンフルーツも不思議な触手で、キウイに似ていました。
4日目にみんなでクレープを食べたのですが、私は紅芋クリームとちんすこう、バニラアイスの入った沖縄限定のクレープを食べました。
ほのかに甘い紅芋クリームとざくざくとした触手のちんすこうの相性が抜群で、今まで食べたことのあるクレープよりも断然おいしかったです。
気づいた事、沖縄は、ご飯の量がとても多いということを知りました。
初めて食べるものほとんどがフルーツ類や小麦粉を使った料理でした。
- 沖縄そばは、思っていたよりも量が多くうどんに近い、そしてゴーヤチャンプルーは、ゴーヤが思っていたよりも苦く一口しか食べれないほどだった。だが、パイナップルやシークワーサーやブルーシールアイスクリームなどは甘くて美味しかった。他にも紅芋タルトやちんすこうやサターアングダーなどの甘いお菓子もあった。そして食べられないゴーヤなどの食べ物は、あまり食べられないとわかりました。
- 沖縄の食べ物はどれもこれも全部おいしかったです。味は濃い目のものが多いのにもかかわらず、さっぱりしていました。食べたことのない肉の部位やゴーヤ、ドラゴンフルーツなどがあって苦いかなと思って食べてみたら甘かったり逆に甘いかなと思って食べてみたら苦かったりして驚きました。
うみぶどうは食べたことがなかったけれど食べてみたら「とびっこ」みたいでおいしくてハマってしまいました。おいしかったです！



▲昼食風景（沖縄そば）きしもと食堂



▲夕食風景（ステーキ）

☆選択テーマ ～発見！沖縄県の魅力～ 「沖縄のシンボル（シーサー）」

- シーサーとは、ライオン（獅子）のことで、魔物や災いを追い払ってくれる沖縄の守り神。守りたいものを背に災いが侵入してくる方向に向かって置かれる。
口が開いているほうがオス、閉じているほうがメス。口を大きく開いた「あ」から始まりの口を完全に閉じた「ん」で終わる、仏教の「阿吽（あうん）」を表現しているといわれている。
シーサーを作るときには、割れないように底にくぼみをつける、くっつける時にはドベを使うなどいろいろな工夫がされていた。
お店にはいろいろな形や色のシーサーが売っていて、自分の好きなものを買うことができる。
沖縄の家では、シーサーは家の前の門柱に置いてあることがほとんどだった。
- 古くから伝わるシーサーの文化だが、街中を見ていて屋根などにおいている人は意外にも少ないものだった。もしかしたら、家の中に置物のように置かれているかもしれないが。
現地で詳しく調べることができなかったのも、事後学習で調べたこともあった。
獅子と呼ばれてきたシーサーは「シーシー」や「シーサー」と呼ばれてきたそうです。私たちが一般的に使っている呼び方は、「シーサー」ですが、「シーシー」が先に呼ばれていて、「シーサー」となっていったのだと考えます。
- 日本の南の方の地域で見られるシーサーは魔除けや守り神として沖縄で親しまれている。
キーホルダーやステッカーにもよく使われていて、かわいい！
⇒沖縄のシンボルとして作り手の思いが込められたシーサーはとっても素敵！
- シーサーといってもいろんな形や見た目があることが分かった。シーサーは口を開いていたらオス、口を閉じてたらメス。
・事前学習：『球陽』によれば、始まりは1689年のことで、当時火事が頻発して難儀していた。
（一部抜粋） 人々が風水師に助言を求めたところ、その風水師は八重瀬岳の影響によるものといいこれを防ぐには獅子の像をつくりその山に向けて設置するようにと助言した。住民がその言に従ってシーサーを設置したところ火事は発生しなくなったというものである。
なお、この時に設けられたシーサーは現存しており、現存最古のものとされる。
各戸の屋根の上に置かれるようになったのは、庶民に瓦葺きが許されるようになった明治以降である。それまでは、寺社や城の門、御嶽（うたき）、貴族の墓陵、村落の出入り口等に設置されるのみだった。材質は石や陶器（素焼きまたは本焼き）、漆喰（しっくい）によるのが基本だが、近年ではコンクリートや青銅製のものもある。
- 口が開いているのがオス、閉じているのがメス！オスは災難を防ぎ、メスは福を招き入れると言う意味



▲シーサー作り体験

熱戦が繰り上げられる湖畔野球場（8月6・7日）

日本スポーツ協会及び北海道スポーツ協会主催による国民体育大会軟式野球競技北海道ブロック予選会が本町と富良野市、中富良野町で6日から8日までの3日間で開催され、本町の町営湖畔野球場では、町軟式野球連盟と南富良野中学校野球部の協力のもと、1回戦から3回戦までの4試合が行われました。

試合は、ホームランや好プレーなどが飛び出す熱戦が繰り上げられ、決勝戦は8日に富良野市民球場で行われ、六花亭が優勝し北海道の代表となりました。また、町営湖畔野球場での開幕試合では、名誉副大会長の高橋町長が始球式を努めました。

観光協会 通信 ④
南富良野まちづくり観光協会 ☎39-7000

道の駅を訪れる観光客の方々の声

南富良野まちづくり観光協会では、道の駅物産センターに窓口を開設してから1ヶ月半が経ち、道の駅を訪れる観光客の方々から、様々な観光の情報が求められています。その内容や対応について紹介します。

〇窓口で求められる情報と対応（質問の多かったものから順に記載）

1. ラベンダー情報の問い合わせ（おすすめスポットや開花状況）

対応：鹿越園地や道の駅前のラベンダー園を紹介して現在の開花状況を説明、見頃の時期が過ぎている場合は、例年の開花状況を説明（7月20日から10日間程度が見頃）

2. 日帰り温泉（お風呂）情報の問い合わせ

対応：かなやま湖保養センターを紹介、温泉を希望の場合は近隣市町村の施設を紹介

3. 食事情報の問い合わせ（飲食店の場所、ご当地グルメのようなものはあるのか）

対応：食べたいものを確認して町内飲食店を紹介、ご当地の料理として本町の鹿肉を提供する料理を紹介

4. ラフティングやカヌーなどアウトドア情報の問い合わせ（これから予約が取れるかなど）

対応：町内のアウトドア業者に連絡を取り予約状況等を確認して紹介、予約が取れない場合は町外アウトドア業者も紹介

5. 地元産のメロンや野菜に対する問い合わせ（どこで購入できるか）

対応：町内産であれば下金山地区の農産物直売所「作倶楽」を紹介、富良野産であれば複合型商業施設フードコートのピストロさっちゃんを紹介

道の駅を訪れる観光客の方々の満足度を高めるため、いただいた問い合わせやニーズは、町や商工会などの関係機関と連携を図っていきます。また、南富良野まちづくり観光協会でも情報を収集していますが、町内事業者の方で、観光客などに伝えたい情報や新たな観光情報などがあればご連絡願います。（パンフレットなどがあれば提供願います）

このコーナーでは、地域や学校で行われるイベント行事などを紹介します。皆さんの身近で行われている楽しい催しなどありましたら、企画課広報統計係（☎52-2115）までお知らせください。

カメラレポート
CAMERA REPORT

サバイバルテクニック教室（7月23日）

陸上自衛隊上富良野駐屯地第4特科群第131特科大隊は、東鹿越旧地域交流センターで中学生、高校生を対象にサバイバルテクニック教室を行いました。

教室には、中学生の女子3名が参加し、異常事態での生き延びる技術として、ペットボトルを使ったろ過装置による水の確保や乾電池を使った火の起こし方のほか、方角を知るコンパスの使い方などを興味深く学んでいました。



真夏のちびっこ開拓隊（7月22日～8月23日）

キッズコム・ファーム（旧肉牛センター跡地）では、道内外から4班に分かれ約120名の子どもたちが参加して、本町の大自然の中、自然開拓体験による教育的プログラムを中心とした「ちびっこ開拓隊」が今年も結成されました。

開拓隊では、これまで「木の家」、「レンガの家」、「石の家」を完成させてきました。今年は「蝦夷文化の家」作りに挑戦し、丸太の皮や節をノコギリやノミなどを使って切り落とし、みんなで力を合わせ家の梁に立てかける作業などを行いました。

開拓隊の子どもたちは、作業を通じて、自然の中で生きる知恵を身に付けるとともに、最後まで諦めない気持ちや仲間と協力し合うことなど、人として大切なものを学んでいました。



富良野地域球団ブルーリッジによる野球指導（8月3日）

北海道ベースボールリーグに参戦している富良野地域球団ブルーリッジの選手4名と監督が、南富良野小学校グラウンドを訪れ野球少年団 幾寅タイガースの子どもたちに野球指導を行いました。

野球指導は、基本的なボールの投げ方、受け方から、バッティングなども行われ、選手達の身振り手振りを交えた丁寧な教えに、子どもたちも真剣に耳を傾け学んでいました。

また、ブルーリッジの試合は、毎年、本町の湖畔野球場でも開催しています。



町の文化財や史跡について紹介します

町の文化財や史跡をご存じですか？
これから毎月文化財や史跡の情報を発信していきますので、ぜひご覧ください。

第1回目は「南富良野町無形文化財幾寅獅子舞」です。

幾寅獅子舞とは？ 昭和40年10月21日に南富良野町無形文化財に指定

幾寅獅子舞は明治36年2月、当時恵光寺住職 寺本恵観氏を始めとする同寺の女人講中の諸氏によって発起結成されました。当時北海道移民として幾寅地区に入植した開拓民は、太古からの自然と闘いながら大密林を伐採し、この幾寅の地に農耕地を開墾しました。

しかし、この苦難の事業と生活を克服するためには住民の強い結束が必要であり、そこで開拓当時の先人達は人々の心を結集する一番良い方法として「自分たちの心の寄りどころとなり又苦難を克服するための神仙への祈り」とを併せて古来郷里に伝承されていた越中獅子をこの地に再現しようとしたのが幾寅獅子舞の創始です。

幾寅獅子の特徴としては、お寺を中心としその女人講中により結成され「幾寅のお寺の獅子」として一般の人々と親しまれてきた点です。獅子舞にも流派がありますが、幾寅の各派の要素が流れ込んでおり、日本古典芸術の能の系統もひいています。

幾寅獅子舞の歴史は、村史、町史に詳しく記載されています。下記QRコードからご覧ください。



南富良野村史



南富良野町史



南富良野町史第二巻

現在も、幾寅獅子舞保存会により、南富良野神社祭や教育委員会の事業等における地域活動や伝承活動が行われています。興味がある方、ぜひ一緒に活動してみませんか？体験からでも大歓迎です。



南富良野神社祭



幾寅獅子舞体験会



本部町親善交流事業

南富高新聞

第64号

発行
南富良野高等学校

花さまざまな研修でスキルアップ！
野外宿泊研修

本校1・2年生が、7月14日～15日に、かなやま湖とシーソープチ川を舞台に野外宿泊研修を行いました。2日間の日程の中心は、テント設営から始まり、事前研修として6月に制作したルアーでの魚釣り体験や、川でのレスキュー体験、夕食では窯から作るピザ作りなど、盛り沢山の内容でした。アウトドア授業の一環として行われているこの野外宿泊研修ですが、今回2日目となる2年生は、昨年度の経験を活かし、様々な場面での1年生に教えるリーダーシップを発揮する光景が見られました。頼もしい成長した姿を見せてくれました。



北海道教育大学岩見沢校の学生さんなど、沢山の温かい協力と交流を通して、実現しています。自然を学びの舞台に、生徒は、考える力、伝える力、解決する力、そして協力する力など、様々な力を育んでいます。来年は今回の1年生が、先輩として、今回の経験を、後輩達に伝えてくれることでしょう。「学びのリレー」を通して、ますます充実した研修になっていくのが今から楽しみです。

介護職員初任者研修会

介護職員初任者研修会が、7月24日（日）～8月21日（日）までの期間で行われ、1年生から3年生まで10名の生徒が受講しました。事前のレポート学習を終えて参加した生徒たちは、車椅子からベッドに利用者者を乗せるなどの実習体験やグループ討議など、3日間の講義や実習を通して、受講した生徒は、知識と経験を備え、最終日の試験に臨みました。この資格を取得すれば、訪問介護、施設介護の両方の場で大いに生かすことができます。

受講した生徒は夏休みに、また一つ社会に貢献できるスキルアップをすることができました。「福祉を大切にしている学校」として今回習得した知識や技術を今後、町内外の福祉の現場で発揮し、貢献していきます。



シリーズ学校だより(234)

各学校の取り組みを紹介します。



右から育英館大学 布施事務局長・京都市育英館 松尾理事長・能登校長・鈴木教育長

南富良野高等学校

7月26日（火）、稚内市にある育英館大学との連携協定締結式が行われました。育英館大学は情報メディア学部を設置し、「デジタルで未来をつかむ大学」をスローガンに、学生が情報メディア社会と地域社会を深く理解するとともに、情報メディアを実践的に活用できる能力を獲得し、そのことによって社会に新しい価値を産み出せるようなカリキュラムを提供しています。また、カールング部やeスポーツ部といった部活動をもち、学生はそれぞれのキャンパスライフを充実させています。今回の協定では、両校がカールングなどを通じて連携し、教育内容の充実及び生徒・学生の学ぶ意欲の向上を図り、地域社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。

本校におきましても、学習では、大学側からの出前講義などを通して、生徒の学びの幅や進路選択の幅をさらに広げたり、カールングについては部活動はもちろん、アウトドア授業の中でも大学との連携を図り、さらに発展した取組に繋がればと期待しています。

当日、締結式の後には、訪問された大学関係者の方々と、かなやま湖にご案内しました。紫色のラベンダーが山や湖と調和して咲き誇る景色に一同、感激されておりました。南富良野町と稚内市は距離にして約30km離れています。今回つながった絆を大切に双方が協力し合い、お互いの生徒や学生の学びの充実、さらには地域発展に広げていきたいと思います。

また、今回の連携協定によって、本校は、北海道教育大学岩見沢校、札幌国際大学と合わせ、道内3つの大学との連携ができました。「枠にとられない連携」を目指し、大学からの講座を生徒だけでなく、地域住民の皆さまにもご案内できるように「学びの発信の場」としての検討も進めてまいります。

ぜひ、一緒に学びの交流を深めていきましょう！

子育て支援センター「ぷっこ」だより

～☆☆明るく元気な子にそだちますように☆☆～

子育て支援センター

☎52-2315
☎090-5985-4339

皆さん夏休みは何をして過ごしましたか？暑い日が続いたり、コロナもなかなか減らないで、お出かけすることも少なかったかもしれませんが、残暑やコロナに負けず親子で元気いっぱい楽しく遊びましょう。

☆ぷっこクラブ（ミニ運動会）



よーいドン！でお母さんと一緒に走ってゴール。メダルをもらってにこにこ笑顔。

☆ぷっこクラブ（どんころ遠足）



川の中をジャブジャブ歩き、虫やドングリも見つけました。

☆0歳ぷっこ



暖かい日差しの中、しゃぼん玉がふわふわ～。
ながめる3人がかわいらしいね♡

☆出張落合支援センター



ぬりえや大好きなブロック遊び、工夫しながら楽しく遊びました。

保育所の元気な子どもたち

幾寅保育所

7月、幾寅保育所では遠足を行いました。ひまわり組さんの子どもたちは、森の中でターザンロープをして遊ぶなど森の散策を楽しみ、お昼には、お母さんの愛情たっぷりの美味しいお弁当を食べて、さらに笑顔いっぱいになっていました。



金山保育所

避難訓練の日、放水体験が行われました！！目の前にはカッコいい消防車、子どもたちは大興奮☆2名ずつ順番に体験させてもらう貴重な体験でした。体験後には、多くの子どもたちが「大きくなったら消防士さんになりたい！」と目をキラキラと輝かしていました。



しょうぼう広報

ほのお

富良野消防署南富良野支署
☎52-2119 FAX52-2979
✉fs-nanpu@vesta.ocn.ne.jp
災害案内 ☎52-3119

第51回北海道消防協会上川地方支部 富良野地区分会消防総合訓練大会



7月3日（日）に南富良野小学校グラウンドにおいて無事開催することができました。
町民の皆さんのご理解とご協力に感謝いたします。



消防総合訓練大会の開催目的

この訓練は、消防機械器具の取扱の習熟と広く消防技術を公開することにより、消防職・団員の士気を高め、富良野広域5市町村消防機関の相互応援体制の強化と災害に対処することを目的としています

開会式

南富良野小学校グラウンドを会場に消防団ごと列を乱さずに行進しながら入場し、大会長へ参加人員の報告を行いました。



消防操法応用訓練

5市町村それぞれの消防団から各5人が出場し、指揮・ポンプ操作等の役割を分担して、標的となる火点への放水を行います。迅速かつ確実な活動が必要となります。



模擬火災訓練

林野火災を想定した大規模な消火訓練です。火災の規模によっては防災ヘリが出勤して上空から消火を行います。各消防車両間の連携が重要となります。



閉会式

訓練大会の査閲官による講評を行い、大会全体を通しての評価を受け、消防総合訓練大会を終了しました。



南富良野支署出動件数（令和4年1月1日～7月31日）

○救急出動 94件（うちドクターヘリ要請件数 9件） ○火災出動 4件（うち他市町村応援出動 1件）
○救助出動 2件

ハロウィンジャンボ5億円

(1等3億円・前後賞各1億円合わせて)

ハロウィンジャンボミニ5,000万円

(1等3千万円・前後賞各1千万円合わせて)

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

9月21日水2種類同時発売!

発売期間 9/21②~10/21⑤
抽せん日 10/28⑤

公益財団法人北海道市町村振興協会 各1枚 300円

宝くじ
公式サイト

24時間
いつでも
ネット購入

宝くじ LOTO ④
NUMBERS
7-OS

BINGO 5
7-OS

Quick One
ワンワン
NEW
いつでも買える。
秒で結果でる。

24時間買えて、
ポイントもたまる!
今すぐ会員登録

お問い合わせ先 | 宝くじコールセンター TEL 0570-01-1192 (ナビダイヤル 有料) TEL 011-330-0777 (有料)

寄附・寄贈

次の方々から寄附・寄贈がありました。皆さんのご厚志に対し紙上をもって厚くお礼申し上げます。

社会福祉協議会へ

○幾寅 高橋百合子様より故高橋雅顕様生前のご厚志に対するお礼として 十五万円

○幾寅 山田東樹様より故山田ミサ子様生前のご厚志に対するお礼として 五万円

一味園・からまつ園・こざくら園・ふくしあへ

○幾寅 幾寅婦人会 様
○幾寅 榎ソケイズ 様
○幾寅 高橋ショッピングストア 様
○幾寅 南富良野赤十字奉仕団 様
○幾寅 柴田昭江 様
○幾寅 鷹嘴充子 様
○幾寅 富樫秀雄 様
○幾寅 吉田美津子 様
○下金山 及川智 様
○下金山 永井博 様

○占冠村 瀬屑文郷 様
○富良野市 増田農園 様
○富良野市 内海義博 様
○富良野市 河井幸江 様
○富良野市 後藤宗男 様
○富良野市 白澤英二 様
○富良野市 藤永初子 様
○富良野市 山下祐二 様
○中富良野市 森川幸作 様
○赤平市 村上あつ子 様
○東川町 旭川福祉専門学校 様
○旭川市 佐藤栄子 様
○旭川市 杉本正人 様
○旭川市 十河靖洋 様
○帯広市 戸塚一衛 様
○大樹町 山内艸太郎 様
○浦幌町 大野健一 様
○釧路市 工藤智美 様
○札幌市 アスカマネジメント 様
○札幌市 経緯北海道保育専門学校 様
○札幌市 榎特殊衣料 様
○札幌市 佐藤美喜子 様
○小樽市 前北啓子 様
○愛知県 神谷松子 様

☆お誕生おめでとう

幾寅 鳥羽 彪 玖
令和4年7月3日生まれ

★お悔やみ申し上げます

金山 松浦 千ヨ子(97)
令和4年7月6日逝去

金山 藤永 幸則(93)
令和4年7月24日逝去

幾寅 山田 ミサ子(83)
令和4年7月31日逝去

🍷 わたしたちのまち

(令和4年7月末日現在)
人口 2,343人(0)
男 1,205人(1)
女 1,138人(△1)
世帯数 1,333戸(△3)
()内は前月比